

講義要綱

SYLLABUS

2026年度

柔整科

2

年

【専門基礎分野】

解剖学Ⅲ
解剖学Ⅳ
解剖学Ⅴ
生理学Ⅲ
生理学Ⅳ
総合スポーツ生理学
運動学Ⅰ
運動学Ⅱ
病理学概論Ⅰ
一般臨床医学Ⅰ
一般臨床医学Ⅱ
外科学概論Ⅰ
整形外科学
リハビリテーション医学Ⅰ
柔道Ⅰ
柔道Ⅱ
柔道Ⅲ

【専門分野】

柔整骨折理論Ⅲ
柔整脱臼理論Ⅱ
柔整軟損理論Ⅱ
柔整総合講座Ⅰ
柔整総合講座Ⅱ
柔整骨折実技Ⅲ
柔整骨折実技Ⅳ
柔整軟損実技
柔整脱臼軟損実技Ⅰ
柔整脱臼軟損実技Ⅱ
外傷学実技
臨床実習Ⅱ
臨床実習Ⅲ



学校法人 エイジェック学園

担当教員	淵ノ上 真太郎	単位数	2	時間数	30
実務/資格	医療系大学で解剖学の講義、実習指導経験のある教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

人体の脈管系、消化器系についての知識を身につける。脈管系の構造、位置を理解し、血液、リンパが人体をどのように循環するか理解する。そして消化器の構造を理解し、内臓の位置関係を的確に説明できるようになることを目標とする。
--

[評価方法]

単位認定は出席日数、単位認定試験等の結果をもって判定する。 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。
--

[教科書]

[参考書]

解剖学改定第2版 全国柔道整復学校協会	
---------------------	--

[履修の条件・留意点]

本講義では専門用語が多いため、予習・復習を習慣化すること。特に解剖学用語は繰り返し確認し、理解を深めることが重要である。授業中は図や資料を活用しながら積極的に学習し、不明点はその都度解消すること。継続的な学習姿勢を求める。

授業計画：回数/講義内容/形式		
1回	脈管系①：体循環と肺循環・心臓の構造・大動脈について	講義
2回	脈管系②：頸部の動脈・頭部の動脈	講義
3回	脈管系③：胸部・腹部の動脈	講義
4回	脈管系④：上肢の動脈・骨盤・下肢の動脈	講義
5回	脈管系⑤：心臓・動脈	講義
6回	脈管系⑥：全身の静脈	講義
7回	脈管系⑦：リンパ系・胎児循環	講義
8回	脈管系⑧：静脈・リンパ	講義
9回	内臓系①：消化器系（口腔・歯・舌・食道・胃）	講義
10回	内臓系②：消化器系（小腸・大腸）	講義
11回	内臓系③：消化器系（肝臓・胆嚢・膵臓）	講義
12回	内臓系④：消化器系	講義
13回	内臓系⑤：呼吸器系	講義
14回	内臓系⑥：呼吸器系	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

解剖学Ⅳ

2学年

[基本情報]

担当教員	淵ノ上 真太郎	単位数	2	時間数	30
実務/資格	医療系大学で解剖学の講義、実習指導経験のある教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

人体の呼吸器系、泌尿器系、生殖器系そして内分泌系についての知識を身につける。各器官の構造と位置を理解し、的確に説明できるようになることを目標とする。
--

[評価方法]

単位認定は出席日数、単位認定試験等の結果をもって判定する。 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。
--

[教科書]

[参考書]

「解剖学」 全国柔道整復学校協会	
------------------	--

[履修の条件・留意点]

覚える量が大変多い科目なので、集中して授業に臨んで下さい。 どの科目でもそうですが、繰り返し復習することが大切で、しっかり知識を身につけていってください。ここでつまづいてしまうと他の科目の学習が滞ってしまう恐れがあります。
--

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	内臓学：泌尿器系（腎臓）	講義
2回	内臓学：泌尿器系（腎臓・尿管）	講義
3回	内臓学：泌尿器系（膀胱）	講義
4回	内臓学：泌尿器系（膀胱・尿道）	講義
5回	内臓学：泌尿器系まとめ 小テスト	講義
6回	内臓学：生殖器系（男性）	講義
7回	内臓学：生殖器系（女性）	講義
8回	内臓学：生殖器系まとめ	講義
9回	内臓学：内分泌系（ホルモン総論・視床下部・下垂体）	講義
10回	内臓学：内分泌系（各内分泌器官）小テスト	講義
11回	内臓学：内分泌系まとめ	講義
12回	神経系 総 論 （中枢神経と末梢神経 ニューロンとグリア細胞）	講義
13回	神経系 大 脳Ⅰ（脳室系、区分と機能中枢、内部構造）	講義
14回	神経系 大 脳Ⅱ（大脳基底核、大脳辺縁系）	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

解剖学Ⅴ

2学年

[基本情報]

担当教員	淵ノ上 真太郎	単位数	2	時間数	30
実務/資格	医療系大学で解剖学の講義、実習指導経験のある教員が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

人体の神経系、感覚器系についての知識を身につける。中枢神経系、末梢神経系、感覚器系の役割や構造を理解し、人体をどのように制御、作用しているかを適切に説明できるようになることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、単位認定試験等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「解剖学」 全国柔道整復学校協会	
------------------	--

[履修の条件・留意点]

覚える量が大変多い科目なので、集中して授業に臨んで下さい。
どの科目でもそうですが、繰り返し復習することが大切で、しっかり知識を身につけていってください。ここでつまづいてしまうと他の科目の学習が滞ってしまう恐れがあります。

授業計画：回数/講義内容/形式		
1回	神経系 間 脳 ・ 小 脳	講義
2回	神経系 脳 幹	講義
3回	神経系 脊 髄Ⅰ（前根後根 灰白質 反射弓）	講義
4回	神経系 脊 髄Ⅱ（上行伝導路 下行伝導路＝錐体路・錐体外路）	講義
5回	神経系 脳神経Ⅰ（嗅神経・視神経・動眼神経・滑車神経・三叉神経・外転神経）	講義
6回	神経系 脳神経Ⅱ（顔面神経・内耳神経・舌咽神経・迷走神経・副神経・舌下神経）	講義
7回	神経系 自律神経（交感神経と副交感神経）	講義
8回	神経系 脊髄神経（頸神経叢と枝 腕神経叢と枝 腰神経叢と枝 仙骨神経叢と枝）	講義
9回	感覚器系（皮膚感覚）	講義
10回	感覚器系（視覚）	講義
11回	感覚器系（聴覚・平衡感覚）	講義
12回	体表解剖（体表区分・骨格系・筋系）	講義
13回	体表解剖（脈管系・神経系）	講義
14回	体表解剖（目耳鼻口、外皮、生体計測）	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

生理学Ⅲ

2学年

[基本情報]

担当教員	大友 由希子	単位数	2	時間数	30
実務/資格	専門学校で指導経験のある歯科医師が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

生体内の神経、運動、感覚を中心に理解する。神経、運動、感覚の働きを学び、生体の恒常性や感覚がどのように保たれているか理解できる知識を身に付けることを目標とする。
--

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、小テスト、単位認定試験等の結果をもって判定する。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。☒	な
--	---

[教科書]

[参考書]

公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修『生理学改訂第4版』,南江堂.	
------------------------------------	--

[履修の条件・留意点]

教科書を持参して下さい。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	感覚の生理（感覚の一般的な特性）	講義
2回	感覚の生理（特殊感覚「視覚・聴覚」）	講義
3回	感覚の生理（特殊感覚「平衡感覚・味覚・嗅覚」）	講義
4回	感覚の生理（体性感覚）	講義
5回	感覚の生理（内臓感覚、痛覚）	講義
6回	運動の生理（運動の調節）	講義
7回	運動の生理（運動神経と運動単位）	講義
8回	運動の生理（脊髄による反射とその調節）	講義
9回	運動の生理（脳幹による運動調節）	講義
10回	運動の生理（高次運動機能）	講義
11回	神経の生理（神経信号の伝達）	講義
12回	神経の生理（神経系の構成）	講義
13回	神経の生理（脳の高次機能）	講義
14回	神経の生理（内蔵機能の調節）	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

生理学Ⅳ

2学年

[基本情報]

担当教員	大友 由希子	単位数	2	時間数	30
実務/資格	専門学校で指導経験のある歯科医師が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

生体の内分泌、生殖、体温調整を中心に理解する。内分泌、生殖、体温の特徴や仕組みを理解し、生体の調整がどのように保たれているか理解できる知識を身に付ける。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、小テスト、単位認定試験等の結果をもって判定する。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修『生理学改訂第4版』,南江堂.

[履修の条件・留意点]

教科書を持参して下さい。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	体温とその調節（体温、熱産生、熱放散）	講義
2回	体温とその調節（体温調節）	講義
3回	体温とその調節（気候馴化）	講義
4回	体温とその調節（発熱とうつ熱）	講義
5回	内分泌（内分泌腺とホルモン）	講義
6回	内分泌（「視床下部ホルモン・下垂体ホルモン」）	講義
7回	内分泌（ホルモンの働き「甲状腺・副甲状腺・副腎皮質」）	講義
8回	内分泌（ホルモンの働き「副腎髄質・腎臓・膵臓」）	講義
9回	内分泌（ホルモンの働き「精巣・卵巣」）	講義
10回	内分泌（ホルモンによる内部環境の恒常性維持）	講義
11回	生殖（性分化）	講義
12回	生殖（男性生殖器）	講義
13回	生殖（女性生殖器）	講義
14回	生殖（妊娠と分娩）	講義
15回	まとめ、解説	講義

担当教員	大友 由希子	単位数	2	時間数	30
実務/資格	専門学校で指導経験のある歯科医師が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

高齢者、競技者の生理学的変化について理解する。加齢により、人体にどのような生理学的変化が起こるのかを理解し、年齢に応じた適切な施術、アドバイスができるようにする。また、運動による生理学的な変化を理解し、競技者に対して適切な施術、アドバイスができるようになることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、小テスト、単位認定試験等の結果をもって判定する。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。☒

[教科書]

[参考書]

公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修『生理学改訂第4版』,南江堂.	
------------------------------------	--

[履修の条件・留意点]

教科書を持参して下さい。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	高齢者の生理学的特徴・変化①（細胞・組織の加齢現象，高齢者の生理的特徴①）	講義
2回	高齢者の生理学的特徴・変化②（高齢者の生理的特徴②，運動と加齢）	講義
3回	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化①（成長に伴うからだや運動能力の発達，）	講義
4回	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化②（競技者の生理的特徴）	講義
5回	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化③（競技者の変化）	講義
6回	神経の生理① 復習	講義
7回	神経の生理② 復習	講義
8回	運動の生理 復習	講義
9回	感覚の生理① 復習	講義
10回	感覚の生理② 復習	講義
11回	内分泌① 復習	講義
12回	内分泌② 復習	講義
13回	生殖 復習	講義
14回	体温とその調節 復習	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

運動学Ⅰ

2学年

[基本情報]

担当教員	飯出 一秀	単位数	2	時間数	30
実務/資格	大学教授を歴任し、専門学校で運動学の指導経験がある博士号を持つ講師が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復師が施術を行う運動器について理解する。運動器の構造を理解した上で、運動の際、それらがどのような働きを行うかを学び、理解できる知識を見に付けることを目標とする。

[評価方法]

テストを行い60%以上の正解をもって、単位修得を認定する。ただし出席日数の充足していない受講者は単位修得を認めない。
--

[教科書]

[参考書]

運動学 斎藤 宏 社団法人全国柔道整復学校協会監修	
---------------------------	--

[履修の条件・留意点]

毎回の授業前にテキストに目を通して（予習して）おけば、授業の習熟度があがります。授業はテキストに沿って行いますので、テキストを必ず持参してください。授業中、机上には、水以外の飲食物を置かないこと。
--

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	授業導入、授業内容の概説	講義
2回	「運動の目的」	講義
3回	「運動の表し方」	講義
4回	「身体運動と力学」小テスト	講義
5回	「運動器の構造と機能」	講義
6回	「神経の構造と機能」	講義
7回	「運動感覚」	講義
8回	「反射と随意運動」小テスト	講義
9回	「四肢と体幹の運動」	講義
10回	運動器の構造と機能 骨、関節の構造と機能	講義
11回	運動器の構造と機能 骨格筋の構造と機能	講義
12回	四肢と体幹の運動 上肢帯	講義
13回	四肢と体幹の運動 肩関節 小テスト	講義
14回	四肢と体幹の運動 肘関節	講義
15回	まとめ、解説	講義

運動学Ⅱ

2学年

担当教員	飯出 一秀	単位数	2	時間数	30
実務/資格	大学教授を歴任し、専門学校で運動学の指導経験がある博士号を持つ講師が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

歩行、走行、姿勢、運動発達などについて理解する。体の仕組みを理解し、立位時や運動時にはどのような動作が行われているかを理解する。新生児から成人までの運動発達を理解し、人の運動がどのように成熟、抑制されるかを理解できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等と進級試験の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「運動学」 斎藤 宏 社団法人全国柔道整復学校協会監修	「基礎運動学」 中村 隆一 斎藤 宏 医歯薬出版
-----------------------------	--------------------------

[履修の条件・留意点]

教科書の全体を1度通読し、その内容について、理解した点、理解できなかった点を明確にしてください。理解できなかった点を自分自身で調べてみてから、もう一度教科書全体を通読して理解に努めてください。（安全な環境確保時において、お互いの意思疎通ができているもとに、自分と他の受講者との間で教科書内容や理解の評価を協同して行ってもよいです。（要確認）

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	四肢と体幹の運動 手関節	講義
2回	四肢と体幹の運動 手指の筋	講義
3回	股関節の運動 小テスト	講義
4回	膝関節の運動	講義
5回	足関節と足部の運動	講義
6回	体幹と脊柱の運動	講義
7回	頸椎の運動 中間テスト	講義
8回	胸椎の運動	講義
9回	腰椎、仙椎および骨盤、顔面の運動	講義
10回	「姿勢」	講義
11回	「歩行」	講義
12回	「運動発達」 中間テスト	講義
13回	「運動学習」	講義
14回	総復習（四肢と体幹の運動～運動学習）	講義
15回	まとめ、解説	講義

担当教員	伊藤 春雄	単位数	2	時間数	30
実務/資格	歯科医師免許を持ち、専門学校で指導経験のある教員が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

病理学についての理解と疾患による生体の変化を病因，形態学的観点から理解する。病理学とはどのような学問かを理解し，生体の観察方法，組織の萎縮や肥大変性，疾病の分類，壊死，循環障害，炎症について，柔道整復師として必要な知識を身に付けることを目標とする。

単位認定試験を行い、60%以上の正解をもって単位修得を認定する。ただし出席日数の充足していない受講者は単位修得を認めない。

病理学概論（医歯薬出版）

遅刻をしないこと。授業中の私語と携帯電話の使用は慎むこと。机上に食物を置かないこと。
上記を守り、学習して行きましょう。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	病理学とは、病理学の対象、剖検、観察方法	講義
2回	疾病の分類、症候の分類	講義
3回	萎縮、変性	講義
4回	代謝障害	講義
5回	老化、壊死、死	講義
6回	血液の循環障害	講義
7回	リンパ液の循環障害	講義
8回	脱水症、高血圧	講義
9回	肥大、過形成	講義
10回	脳死と臓器移植	講義
11回	炎症の一般	講義
12回	炎症の原因と形態学的変化	講義
13回	炎症の分類	講義
14回	炎症の一般・原因と形態学的な変化・分類	講義
15回	まとめ、解説	講義

担当教員	高桑 雄一	単位数	2	時間数	30
実務/資格	医師及び医科大学での教育と研究の実績を持つ担当教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

柔道整復師に必要な医学について学ぶ。臨床では様々な患者が来院するため、業務範囲外の知識を身に付け、適切に評価、対応できるようにする。評価をする際の適切な対応、問診、視診、打診、触診、生命徴候や検査法などの知識を身に付ける。

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、小テスト、単位認定試験等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。☒

一般臨床医学（医歯薬出版株式会社）改訂第3版	
------------------------	--

プリントを参考に板書を筆記し、正常（解剖・生理）と照らして、病態のポイントを理解するよう努めること。
毎回配布する確認の資料を自分で整理すること。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	1 診察概論（一般臨床医学とは？現状と課題、学び方）	講義
2回	2 診察各論 1（A医療面接）	講義
3回	2 診察各論 2（B視診 1）	講義
4回	2 診察各論 3（B視診 2）	講義
5回	2 診察各論 4（B視診 3）	講義
6回	2 診察各論 5（C打診、E触診）	講義
7回	2 診察各論 6（D聴診）	講義
8回	2 診察各論 7（F生命徴候）	講義
9回	2 診察各論 8（G感覚検査）	講義
10回	2 診察各論 9（H反射検査）	講義
11回	2 診察各論10（I代表的な臨床症状 1）	講義
12回	2 診察各論11（I代表的な臨床症状 2）	講義
13回	3 検査法 1	講義
14回	3 検査法 2	講義
15回	一般臨床医学Ⅰまとめ（期末試験）	講義

担当教員	高桑 雄一	単位数	2	時間数	40
実務/資格	医師及び医科大学での教育と研究の実績を持つ担当教員が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復師に必要な医学について学ぶ。具体的には呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、代謝疾患などについて学び、臨床現場で適切な評価ができ、説明できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、小テスト、単位認定試験等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。☒

[教科書]

[参考書]

一般臨床医学（医歯薬出版株式会社）改訂第3版

[履修の条件・留意点]

プリントを参考に板書を筆記し、正常（解剖・生理）と照らして、病態及び診断と治療のポイントを理解するよう努めること。毎回配布する「確認」の資料を自分で整理すること。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	呼吸器疾患・総論・各論1	講義
2回	呼吸器疾患・各論2	講義
3回	呼吸器疾患・各論3	講義
4回	呼吸器疾患・各論4	講義
5回	呼吸器疾患・各論5・まとめ	講義
6回	循環器疾患・総論・各論1	講義
7回	循環器疾患・各論2	講義
8回	循環器疾患・各論3	講義
9回	循環器疾患・各論4	講義
10回	循環器疾患・各論5・まとめ	講義
11回	消化器疾患・総論・各論1	講義
12回	消化器疾患・各論2	講義
13回	消化器疾患・各論3	講義
14回	消化器疾患・各論4	講義
15回	消化器疾患・各論5・まとめ	講義
16回	消化器疾患・まとめ	講義
17回	代謝疾患・総論・各論1	講義
18回	代謝疾患・各論2	講義
19回	代謝疾患・各論3・まとめ	講義
20回	一般臨床医学Ⅱまとめ・解説	講義

担当教員	河村 英恭、柿沼 寛人	単位数	2	時間数	30
実務/資格	臨床経験のある医師が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復師に必要な外科学について学ぶ。組織の損傷，熱傷，炎症，感染症，輸血，輸液，消毒，手術法，麻酔，移植，免疫を，柔道整復師として必要な知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、小テスト、単位認定試験等の結果をもって判定する。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。☒

[教科書]

[参考書]

外科学概論 改定第4版（南江堂）	
------------------	--

[履修の条件・留意点]

柔道整復師で特に必要な内容を中心に、授業中に説明します。下記の教科書に準じて授業を進めます。授業中になるべく頭に入れるようにしてください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	イントロダクション（解剖・生理の復習を含む）	講義
2回	損傷	講義
3回	炎症と外科感染症	講義
4回	腫瘍	講義
5回	ショック、心肺蘇生、出血と止血	講義
6回	輸液、輸血	講義
7回	消毒と滅菌	講義
8回	手術と麻酔	講義
9回	移植と免疫	講義
10回	外傷総論	講義
11回	脳神経外科	講義
12回	甲状腺、頸部疾患、胸部疾患	講義
13回	心臓、脈管、乳腺疾患	講義
14回	腹部外科疾患	講義
15回	まとめ、解説（単位認定試験）	講義

担当教員	林 泰京	単位数	2	時間数	30
実務/資格	骨関節、筋などの運動系疾患、外傷を大学で教授経験のある教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

整形外科領域の疾患，治療法を学ぶ。運動器を施術するにあたり，外傷以外の疾患に対しても適切に対応できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、小テスト、進級試験単位認定試験、進級試験の結果をもって総合判定する。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが、公欠以外の欠席の場合は0点とし、平均点に含む。単位認定試験100点満点中60点以上で単位を認定する。試験範囲はこの授業で学習した範囲とする。

[教科書]

[参考書]

整形外科学（改訂第4版）	標準整形外科学（第14版）
--------------	---------------

[履修の条件・留意点]

1）特別の理由がない遅刻は出席と認めない。2）講義中の私語、携帯電話による通話、メールは禁止し、直ちに退席を求める。3）学習状況に応じて授業計画は柔軟に変更する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	整形外科とは 運動器の基礎知識,整形外科の診察法	講義
2回	整形外科の検査法	講義
3回	整形外科の治療法(①保存療法②観血的療法)	講義
4回	骨関節損傷総論、スポーツ整形外科学	講義
5回	疾患別各論①感染性疾患	講義
6回	疾患別各論②悪性骨腫瘍	講義
7回	疾患別各論③良性骨腫瘍、軟部腫瘍	講義
8回	小テスト、疾患別各論④非感染性軟部・骨関節疾患（変形性関節症、関節リウマチほか）	講義
9回	疾患別各論⑤非感染性軟部・骨関節疾患（骨粗鬆症ほか）	講義
10回	疾患別各論⑥全身性の骨・軟部疾患	講義
11回	疾患別各論⑦骨端症、⑧四肢循環障害	講義
12回	疾患別各論⑧四肢循環障害	講義
13回	疾患別各論⑨上肢神経損傷	講義
14回	小テスト、総復習	講義
15回	総まとめ、解説	講義

担当教員	田中 順一郎☒	単位数	2	時間数	30
実務/資格	専門学校で指導経験のある理療科教員免許を持つ教員が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

患者がもつ障害に対する理解を深めると同時に、国家試験に向け知識を整理・吸収し、リハビリテーションの基礎について学ぶ。リハビリテーションの概念、評価、障害と治療学などについて理解する。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等と進級試験の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

公益社団法人 全国柔道整復学校協会
監修：リハビリテーション医学 改訂第4版

授業毎にプリントを配布する

[履修の条件・留意点]

復習を欠かさないこと。教科書を読んでくることが望ましい。疑問に思ったことはすぐ質問する。授業中、携帯電話の電源はオフにし、飲食物は机上に置かないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	リハビリテーションの理念	講義
2回	リハビリテーションの理念対象と障害者の実態	講義
3回	障害の階層とアプローチ	講義
4回	リハビリテーションの関連職種	講義
5回	身体計測、運動の面と軸	講義
6回	バイタルサインと意識障害	講義
7回	障害の受容、心理的評価	講義
8回	日常生活動作（ADL）の評価	講義
9回	小児運動発達の評価	講義
10回	認知症の評価	講義
11回	廃用症候群	講義
12回	下位運動ニューロン障害、筋萎縮の原因と評価	講義
13回	上位運動ニューロン障害と痙縮	講義
14回	関節拘縮と関節可動域テスト	講義
15回	まとめ、解説	講義

担当教員	青木 宏嗣	単位数	1	時間数	30
実務/資格	臨床経験があり、柔道の指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

柔道授業を通して、心身の力を有効に活用できるようにする。礼法、受け身などの基本動作を身に着け、健康のため・運動力学の理論を知る・人の力を感じるなどの下位課題を達成し、柔道整復師としての技能向上を目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道（南江堂）	
---------	--

[履修の条件・留意点]

柔道衣は毎回持ち帰り良好な状態（清潔、おおむね乾燥、不愉快な臭いがしない）に保つこと。常に怪我の危険性を予測し、真剣に行うこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス、柔道の歴史について	実習
2回	基本動作（礼法、姿勢、体さばき、移動の仕方、受身）	実習
3回	基本動作（崩し、組み方、受身）	実習
4回	受身および寝技の基本動作	実習
5回	寝技の基本動作および固技（袈裟固、崩袈裟固）	実習
6回	袈裟固、崩れ袈裟固の復習および膝車	実習
7回	膝車の復習および支釣込足	実習
8回	支釣込足の復習および固技（横四方固）	実習
9回	大腰および上四方固	実習
10回	大腰の復習および固技の復習	実習
11回	釣込腰	実習
12回	釣込腰および寝技の乱取	実習
13回	基本動作、对人的基本技術の復習	実習
14回	基本動作～釣り込み腰までの総復習	実習
15回	まとめ、解説	実習

[授業科目]

柔道Ⅱ

2学年

[基本情報]

担当教員	青木 宏嗣	単位数	1	時間数	30
実務/資格	臨床経験があり、柔道の指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

柔道授業を通して、心身の力を有効に活用できるようにする。基本動作を復習し、投げ技、固技を身に着け、健康のため・運動力学の理論を知る・人の力を感じるなどの下位課題を達成し、柔道整復師としての技能の向上を目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道（南江堂）	
---------	--

[履修の条件・留意点]

柔道衣は毎回持ち帰り良好な状態（清潔、おおむね乾燥、不愉快な臭いがしない）に保つこと。常に怪我の危険性を予測し、真剣に行うこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	基本動作,对人的基本技術の復習	実習
2回	背負投（打込,投込）	実習
3回	背負投の復習,一本背負投（打込,投込）	実習
4回	一本背負投の復習,体落（打込,投込）	実習
5回	総復習（背負投,一本背負い投,体落）	実習
6回	大外刈（打込,投込）	実習
7回	大外刈の復習,大内刈（打込,投込）	実習
8回	大内刈の復習,小内刈（打込,投込）	実習
9回	総復習（大外刈,大内刈,小内刈）	実習
10回	固技の基本動作,固技（肩固,縦四方固）	実習
11回	固技の復習及び固技の連絡変化	実習
12回	総復習（基本動作～対落）	実習
13回	総復習（大外刈～大内刈）	実習
14回	総復習（投技、固技）	実習
15回	まとめ,解説	実習

[授業科目]

柔道Ⅲ

2学年

[基本情報]

担当教員	青木 宏嗣	単位数	1	時間数	30
実務/資格	臨床経験があり、柔道の指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

柔道授業を通して、身心の力を有効に活用できるようにする。基本動作、投げ技を復習し、実践的な技術を身に
着け、健康のため・運動力学の理論を知る・人の力を感じるなどの下位課題を達成し、柔道整復師としての技能
の向上を目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道（南江堂）	
---------	--

[履修の条件・留意点]

柔道衣は毎回持ち帰り良好な状態（清潔、おおむね乾燥、不愉快な臭いがしない）に保つこと。常に怪我の危
険性を予測し、真剣に行うこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	基本動作、对人的基本技術の復習	実習
2回	背負投・一本背負投・体落の復習	実習
3回	足技（大外刈・大内刈・小内刈）の復習	実習
4回	投技の連絡変化（足技から）	実習
5回	投技の連絡変化（足技から）	実習
6回	払腰	実習
7回	払腰の復習および内股	実習
8回	内股の復習	実習
9回	総復習（払腰・内股）	実習
10回	立勝負から寝勝負への連絡変化	実習
11回	試合練習（立技・寝技）	実習
12回	試合練習（立技・寝技）	実習
13回	総復習（基本動作～内股）	実習
14回	総復習（立技・寝技）	実習
15回	まとめ、解説	実習

[授業科目]

柔整骨折理論Ⅲ

2学年

[基本情報]

担当教員	西尾 悠介	単位数	2	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

教科書およびプリント、パワーポイントでの授業実施、国家試験に向けての理論を学び、臨床、実技につなげる。体幹、下肢の骨折を解剖学を含めて学び、臨床現場で適切な施術、処置ができるようになることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テストの結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学・理論編 改訂第7版 実技書 他	
-----------------------	--

[履修の条件・留意点]

教科書および配付プリントは毎回持参する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	頭部、顔面部の骨折 1	講義
2回	頭部、顔面部の骨折 2	講義
3回	頭部、顔面部の骨折 3	講義
4回	頸椎の骨折 1	講義
5回	頸椎の骨折 2 小テスト 1	講義
6回	胸椎の骨折	講義
7回	胸部の骨折 1	講義
8回	胸部の骨折 2	講義
9回	胸部の骨折 3 小テスト 2	講義
10回	骨盤骨骨折 1	講義
11回	骨盤骨骨折 2 小テスト 3	講義
12回	大腿骨近位端部骨折 1	講義
13回	大腿骨近位端部骨折 2 小テスト 4	講義
14回	大腿骨近位端部骨折 3	講義
15回	総まとめ	講義

担当教員	間中 朋美	単位数	2	時間数	30
実務/資格	専門学校での指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

体幹，下肢の脱臼について理解する。各関節の発生機序，症状，治療法などを学び，臨床現場で活かせる知識，技術を身に付けることを目標とする。

単位認定試験にて（60点以上）単位を認定する。ただし、授業の1/3を欠席した場合、本試験の受験は認めない。小テストで7割以下の場合、課題を提出すること。

柔道整復学 理論・実技

標準整形外科 骨・関節X線写真の撮りかた見かた

臨床において対応できるように基本的な知識を身に付けよう。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	手部の脱臼（機能解剖 CM・MPJ脱臼）	講義
2回	手部の脱臼（PIPJ脱臼・DIP関節脱臼） 顎関節脱臼 ①（解剖・発生機序）	講義
3回	顎関節脱臼 ②（前方脱臼・後方脱臼・側方脱臼）	講義
4回	顎関節脱臼 ②（整復法・固定）	講義
5回	顎関節脱臼復習 / 解答・解説 / 頸椎脱臼 ①（解剖）	講義
6回	第1回小テスト / 頸椎脱臼・胸腰椎脱臼	講義
7回	股関節脱臼 ②（前方脱臼・後方脱臼）	講義
8回	股関節脱臼 ③（中心性脱臼）	講義
9回	発育性股関節脱臼 ①（概要）	講義
10回	発育性股関節脱臼 ②（固定法）	講義
11回	第2回小テスト / 解答・解説	講義
12回	膝関節脱臼 ①（機能解剖・前方脱臼）	講義
13回	膝関節脱臼 ②（後方脱臼・側方脱臼・回旋脱臼）	講義
14回	膝関節脱臼復習問題 / 解答・解説	講義
15回	まとめ・解説	講義

[授業科目]

柔整軟損理論Ⅱ

2学年

[基本情報]

担当教員	最上 忠	単位数	2	時間数	30
実務/資格	専門学校での指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

体幹，下肢の軟部組織損傷について理解する。各組織損傷の発生机序，症状，治療法などを学び，臨床現場で活かせる知識，技術を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 理論編	標準整形外科学（医学書院）
-----------	---------------

[履修の条件・留意点]

授業中は携帯などの使用、飲食は禁止。机上に置かず、鞆の中にしまうこと。
授業中は脱帽すること。居眠り、スマホなどを複数回注意された場合は減点となります。

授業計画：回数/講義内容/形式		
1回	股関節疾患①：単径部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股	講義
2回	股関節疾患②：梨状筋症候群、股関節拘縮、大腿骨頭すべり症	講義
3回	股関節疾患③：ペルテス病、大腿骨頭壊死症	講義
4回	大腿部軟損：大腿部打撲、肉離れ	講義
5回	小テスト① 神経麻痺～大腿部疾患	講義
6回	膝関節疾患①：膝の構造、半月板損傷	講義
7回	膝関節疾患②：膝の靱帯損傷	講義
8回	膝関節疾患③：発育期の損傷、腸脛靱帯炎、鷲足炎	講義
9回	膝関節疾患④：膝蓋大腿関節疾患、神経障害	講義
10回	小テスト② 小児の膝疾患～膝蓋大腿関節疾患	講義
11回	下腿部軟部組織損傷：アキレス腱断裂、テニスレッグ	講義
12回	足部軟部組織損傷①：アキレス腱炎、足関節捻挫	講義
13回	足部軟部組織損傷②：足部の有痛性疾患（セーバー病、ケーラー病、種子骨障害）	講義
14回	足部軟部組織損傷③：足部の有痛性疾患（外反母趾、踵骨棘、足底腱膜炎、モートン病）、扁平足障害	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

柔整総合講座Ⅰ

2学年

[基本情報]

担当教員	最上 忠	単位数	2	時間数	30
実務/資格	専門学校での指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復学について学ぶ。柔道整復学理論の総論を含む軟部組織損傷についてさらに理解を深め、整形外科疾患なども合わせて理解し、臨床現場で対応できる知識、能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 理論編	標準整形外科学（医学書院）
-----------	---------------

[履修の条件・留意点]

授業中は携帯などの使用、飲食は禁止。机上に置かず、鞆の中にしまうこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	下腿部軟部組織損傷：シンスプリント、アキレス腱炎、足関節捻挫①	講義
2回	足部軟部組織損傷①：足関節捻挫②	講義
3回	足部軟部組織損傷②：足部の有痛性疾患	講義
4回	足部軟部組織損傷③：扁平足障害	講義
5回	小テスト①（足部軟損復習）	講義
6回	肩の軟部組織損傷（腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷）	講義
7回	肩の軟部組織損傷（野球肩、肩関節周囲炎、石灰性腱炎）	講義
8回	肘の軟部組織損傷（靱帯損傷、外側上顆炎、内側上顆炎）	講義
9回	肘の軟部組織損傷（野球肘：内側型、外側型、後方型、PLRI）	講義
10回	小テスト② 上肢の神経麻痺（正中神経麻痺、橈骨神経麻痺）	講義
11回	上肢の神経麻痺（尺骨神経麻痺）	講義
12回	手の軟部組織損傷（TFCC損傷、キーンベック病、ド・ケルバン病、腱交叉症候群）	講義
13回	指の軟部組織損傷（側副靱帯損傷、弾発指、ヘバーデン結節、ブシャール結節）	講義
14回	まとめ、解説	講義
15回	実力判定試験	講義

[授業科目]

柔整総合講座Ⅱ

2学年

[基本情報]

担当教員	須田 正志		単位数	2	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

柔道整復学について学ぶ。柔道整復学理論の各論についてさらに理解を深め、整形外科疾患、内科疾患なども合わせて理解し、臨床現場で対応できる知識、能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テストの結果をもって判定する。 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学・理論編 改訂第7版 実技書 他	医学書院 骨折治療の進め方
-----------------------	---------------

[履修の条件・留意点]

私語など他の学生に迷惑をかける行為は禁止とする。 ※学生諸君の理解度、要望により授業計画、内容の変更の可能性あり

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	大腿骨骨幹部骨折 1	講義
2回	大腿骨遠位端部骨折	講義
3回	膝蓋骨骨折	講義
4回	下腿骨近位端部骨折 1	講義
5回	下腿骨近位端部骨折 2	講義
6回	下腿骨骨幹部骨折 1 小テスト 1	講義
7回	下腿骨骨幹部骨折 2	講義
8回	下腿骨遠位端部骨折 1	講義
9回	下腿骨遠位端部骨折 2 小テスト 2	講義
10回	足根骨骨折：距骨骨折	講義
11回	足根骨骨折：踵骨骨折	講義
12回	足根骨骨折	講義
13回	中足骨骨折 1	講義
14回	趾骨骨折 小テスト 3	講義
15回	総まとめ	講義

担当教員	関 凌眞		単位数	1	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習	

[授業目標]

座学で学んだ下肢骨折の知識を施術に生かせるよう、実技の内容を理解する。下肢の骨折の整復固定の技術を身に付ける事を目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験と進級試験も結果をもって判定する。
なお、前授業数の1/3以上の欠席があった場合、学年末試験の受験を認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学・実技編 改訂版第2版	
------------------	--

[履修の条件・留意点]

授業で使用する包帯、ハサミなど必要なものは忘れない事。実技の時間は白衣を着用し、アクセサリなど実技の邪魔になるものは外す事。実技室は飲食禁止です、また机上に飲食物を置く事も禁止とします。

授業計画：回数/講義内容/形式		
1回	オリエンテーション、ガイダンス	実習
2回	第5中手骨頸部骨折(理論・固定)	実習
3回	第5中手骨頸部骨折(理論・固定材作成)	実習
4回	第5中手骨頸部骨折(プライトン固定)	実習
5回	中足骨骨折(理論・固定)	実習
6回	中足骨骨折(プライトン固定)	実習
7回	肋骨骨折(診察法の手順・厚紙作成)	実習
8回	肋骨骨折(理論・固定)	実習
9回	肋骨骨折(固定)	実習
10回	下腿骨幹部骨折(診察法の手順と整復)	実習
11回	下腿骨幹部骨折(クラーメル副子固定)	実習
12回	下腿骨幹部骨折(ギプス固定)	実習
13回	復習(中足骨・足趾骨折)	実習
14回	復習 (ボクサー・肋骨・下腿骨幹部骨折)	実習
15回	まとめ・解説	実習

担当教員	佐々木 玲衣		単位数	1	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

座学で学んだ知識を施術に生かせるよう、実技の内容を理解する。外傷に対するギプスの固定技術を身に付ける事を目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等と進級試験の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 実技編 包帯固定学	プリント配布
-----------------	--------

[履修の条件・留意点]

授業で使用する包帯セット、ハサミを忘れない事。座学以外の授業は常に白衣は着用する事。疑問に思ったことはすぐ質問する。授業中の机上に菓子、飲み物等を出しておかない。実技室は飲食禁止。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	シラバスの説明 熱可塑性キャスト材を使用した手関節・手指の固定	実習
2回	熱可塑性キャスト材を使用した手関節・手指の固定前腕短腕ギプス（手関節良肢位）	実習
3回	前腕短腕ギプス（手関節良肢位）	実習
4回	膝関節ギプス（理論）（靱帯損傷・膝蓋骨骨折に対応）	実習
5回	膝ギプス	実習
6回	足関節ギプス（理論）（靱帯損傷・足関節部骨折に対応）	実習
7回	足関節ギプス	実習
8回	鎖骨骨折 整復・固定	実習
9回	上腕骨外科頸骨折 整復	実習
10回	上腕骨骨幹部骨折 固定	実習
11回	コーレス骨折 整復 固定	実習
12回	コーレス骨折 整復 固定	実習
13回	鎖骨骨折・上腕骨外科頸骨折・上腕骨骨幹部・コーレス骨折	実習
14回	まとめ、解説	実習
15回	まとめ、解説	実習

[授業科目]

柔整軟損実技

2学年

[基本情報]

担当教員	間中 朋美		単位数	1	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

軟部組織損傷に対しての施術，検査法を理解する。体幹，上肢，下肢の軟部組織損傷理解し，各損傷に対しての施術，検査法が適切に行え，評価できる知識，技術を身に付けることを目標とする。
--

[評価方法]

実技試験は認定実技試験に準じて行う。① 術者 ② 患者 ③ 助手 この3つの担当をすべて行って点数を与える。（ 60点以上で合格とする。）試験日両日の欠席は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復実技	標準整形外科
--------	--------

[履修の条件・留意点]

1回やった＝出来るではない。授業時間中は何度も何度も練習をすること。実技室で実技を行わない、ふざけたりしているなど周りへの迷惑行為があった場合は減点対象とする。実技の授業なのでしっかり練習を行うこと。行わない場合は、出席を取り消す場合がある。 *授業中の関係のない私語厳禁、白衣着用の事。授業と関係ないものは出さない。
--

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	頸部捻挫 ・ 頸椎疾患 徒手検査法	実習
2回	腰部捻挫 ・ 腰椎疾患 徒手検査法	実習
3回	肩腱板損傷 徒手検査法	実習
4回	上腕二頭筋長頭腱損傷 徒手検査法	実習
5回	肉離れ（大腿四頭筋）	実習
6回	肉離れ（ハムストリングス）	実習
7回	肉離れ（下腿三頭筋・アキレス腱断裂）	実習
8回	中間まとめ（確認）	実習
9回	膝関節軟部組織損傷（内側側副靱帯損傷）	実習
10回	膝関節軟部組織損傷（十字靱帯損傷）	実習
11回	膝関節軟部組織損傷（膝半月板損傷）	実習
12回	足関節捻挫① 理論 検査法	実習
13回	まとめ・演習	実習
14回	まとめ・演習	実習
15回	まとめ・演習	実習

[授業科目]

柔整脱臼軟損実技Ⅰ

2学年

[基本情報]

担当教員	森澤 隆弘、間中 朋美		単位数	1	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

下肢の脱臼、体幹の軟部組織損傷に対して処置を学ぶ。下肢脱臼の整復、固定の基礎知識、技術を身に付ける。また、下肢軟部組織損傷の検査法と処置できる技術を身につけ、臨床現場で施術できる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

試験形式は4択選択問題と筆記の文章問題で構成し、点数配分は文章問題が6割以上とする。正答率6割以上で単位認定とする。
* 脱臼軟損それぞれが6割以上を合格とする。(片方が6割満たない場合、再試験とする。)
* 小テストを行うので小テストで取得した点数によって、いくらか本試験に加点する。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学理論・実技	標準整形
------------	------

[履修の条件・留意点]

- ① 教科書は必ず持参すること。 ② プリントや教科書に大事なことは書き込むこと。
- ③ 復習をきちんと行うこと。 ④ 分からない事はそのままにしないこと。
- ⑤ 検査法や整復法は積極的にこなう。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	膝蓋骨脱臼	実習
2回	足部脱臼	実習
3回	ガイダンス、頭部外傷、顎関節症	実習
4回	足部脱臼 / 足関節機能解剖	実習
5回	足関節脱臼骨折 ①	実習
6回	頸部の疾患①	実習
7回	足関節脱臼骨折 ② / 小テスト	実習
8回	頸部の疾患②	実習
9回	足関節脱臼骨折 ③	実習
10回	第1回小テスト、胸背部疾患	実習
11回	総復習・小テスト	実習
12回	腰部疾患①	実習
13回	腰部疾患②	実習
14回	総復習	実習
15回	まとめ・解説	実習

担当教員	佐々木 玲衣		単位数	1	時間数	40
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

上肢、下肢の脱臼、軟部組織損傷に対して処置を学ぶ。上肢、下肢の脱臼の整復、固定の基礎知識、技術を身に付ける。また、上肢、下肢の軟部組織損傷の検査法と処置できる技術を身につけ、臨床現場で施術できる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等と進級試験の結果をもって判定する。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学理論 実技	標準整形外科
------------	--------

[履修の条件・留意点]

- ① 教科書は必ず持参すること。 ② プリントや教科書に大事なことは書き込むこと。
③ 復習をきちんと行うこと。 ④ 分からない事はそのままにしないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	実技に関する脱臼総論	実習
2回	肩鎖関節脱臼(解剖・理論・整復)	実習
3回	肩関節脱臼(解剖・理論・整復)	実習
4回	肘関節脱臼(解剖・理論・整復)	実習
5回	肘内障(解剖・理論・整復・固定)第2指PIP背側脱臼(解剖・理論・整復・固定)	実習
6回	顎関節(解剖・理論・整復・固定)	実習
7回	肩鎖・肩・肘・肘内障・指背側脱臼 理論確認	実習
8回	肩鎖・肩・肘・肘内障・指背側脱臼 理論確認	実習
9回	肩鎖関節脱臼(整復・固定)実技	実習
10回	肩鎖関節脱臼(整復・固定)実技	実習
11回	肩関節前方脱臼(整復・固定)実技	実習
12回	肩関節前方脱臼(整復・固定)実技	実習
13回	肘関節後方脱臼(整復・固定)実技	実習
14回	肘関節後方脱臼(整復・固定)実技	実習
15回	肘内障(整復・固定)実技	実習
16回	第2指PIP背側脱臼(整復・固定)実技	実習
17回	肩鎖関節脱臼・肩関節脱臼 実技確認	実習
18回	肘関節脱臼・肘内障・第2指PIP背側脱臼 実技確認	実習
19回	まとめ・解説	実習
20回	まとめ・解説	実習

[授業科目]

外傷学実技

2学年

[基本情報]

担当教員	兵藤 正樹、渡邊 勇勝		単位数	1	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

高齢者、競技者の外傷の予防と、外傷を起こした際の処置能力を身に付ける。高齢者、競技者の生理学的特徴を理解したうえで、どのような予防が効果的かを理解し、適切に説明できる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。筆記試験で40点、実技試験で60点の合計100点満点で採点。

[教科書]

[参考書]

競技者の外傷予防	
----------	--

[履修の条件・留意点]

授業中は携帯などの使用、飲食は禁止。机上に置かず、鞆の中にしまうこと。
実技では白衣着用

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	競技者の外傷予防(外傷発生要因)(外傷予防対策)	実習
2回	競技者の外傷予防のための実技（評価と測定）	実習
3回	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際	実習
4回	成長期の外傷予防・高齢者の外傷予防	実習
5回	総復習	実習
6回	まとめ、解説（筆記試験）	実習
7回	テーピング（足関節：バスケットウィーブ）	実習
8回	テーピング（足関節：スターアップ、ヒールロック）	実習
9回	テーピング（膝関節：Xサポートテープ）	実習
10回	固定（足関節：厚紙副子固定）	実習
11回	固定（アキレス腱断裂：金属副子固定）	実習
12回	総復習①	実習
13回	総復習②	実習
14回	まとめ、解説（実技試験）	実習
15回	まとめ、解説（実技試験）	実習

担当教員	佐々木 玲衣		単位数	1	時間数	45
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

接骨院、整形外科クリニックにおいて実習を行う。クリニックで実習を行うことにより、医師、看護師、理学療法士との連携を学び、より広い視野を身に付ける。また、接骨院では稀な疾患を見ることにより、幅広い患者への対応ができるようになることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は実習先の先生の評価シートの評価と実習ノートの記入をもって評判定する。

[教科書]

[参考書]

--	--

[履修の条件・留意点]

身だしなみ(頭髪、髪色、服装、アクセサリー)には特に注意すること。
医療人としての自覚を持ち、患者さんに接する態度にも十分に留意する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	主に整骨院・整形外科など臨床現場にて見学実習	実習
2回		実習
3回		実習
4回		実習
5回		実習
6回		実習
7回		実習
8回		実習
9回		実習
10回		実習
11回		実習
12回		実習
13回		実習
14回		実習
15回		実習
16回		実習
17回		実習
18回		実習
19回		実習
20回		実習
21回		実習
22回		実習
23回		実習

担当教員	佐々木 玲衣		単位数	1	時間数	45
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

接骨院、整形外科クリニックにおいて実習を行う。クリニックで実習を行うことにより、医師、看護師、理学療法士との連携を学び、より広い視野を身に付ける。また、接骨院では稀な疾患を見ることにより、幅広い患者への対応ができるようになることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は実習先の先生の評価シートの評価と実習ノートの記入をもって評判定する。

[教科書]

[参考書]

--	--

[履修の条件・留意点]

身だしなみ(頭髪、髪色、服装、アクセサリ)には特に注意すること。
医療人としての自覚を持ち、患者さんに接する態度にも十分に留意する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	主に整骨院・整形外科など臨床現場にて見学実習	実習
2回		実習
3回		実習
4回		実習
5回		実習
6回		実習
7回		実習
8回		実習
9回		実習
10回		実習
11回		実習
12回		実習
13回		実習
14回		実習
15回		実習
16回		実習
17回		実習
18回		実習
19回		実習
20回		実習
21回		実習
22回		実習
23回		実習